（別紙様式３）

令和３年３月 31 日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長　殿

住所　　高知県高知市丸ノ内１丁目７番 52 号
管理機関名　高知県教育委員会
代表者名　　伊藤　博明

令和２年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を，下記により提出します。

記

１　事業の実施期間
令和２年５月 25 日（契約締結日）～令和３年３月 31 日

２　指定校名・類型
学校名　　高知県立大方高等学校
学校長名　大西　雅人
類型　　地域魅力化型

３　研究開発名
「地域密着型の未来の“地域の創り手”人材の育成（ソピアの旗）プロジェクト」

４　研究開発概要
本校はこれまで、総合的な学習の時間において「自律創造型地域課題解決学習」を柱として位置づけ、コミュニティ・スクールの強みを生かした取組を進めてきた。近年は学校設定科目である地域学において地域防災における課題解決に取り組んでいる。生徒たちは、地域に出て地域から学ぶことにより課題解決能力が身に付いており、探究力の向上や地域貢献等への意欲も向上している。
今後は本事業を通してつけたい力「探究力」「つながる力」「多様性受容力」「マネジメント力」「レジリエンス」を育成するとともに、直接・間接に関わらず郷土を愛し誇りを持った未来の「地域の創り手」となる人材の育成を目指す。そのため外部の専門家との連携を基に、新学習指導要領で位置づけられている探究活動を推進し、効果的なカリキュラムの開発を行い、事業終了後も改善を進めながら効果的な取組を継続していく。

５　学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無
・学校設定教科・科目　　開設している　・　開設していない
・教育課程の特例の活用　　活用している　・　活用していない

6　運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
畦地　和也	黒潮町教育委員会　教育長	関係行政機関の職員
村上　健太郎	NPO 砂浜美術館　理事長	学識経験者
矢守　克也	京都大学　教授 人と防災未来センター　上級研究員	学識経験者
石筒　覚	高知大学地域協働学部　准教授	学識経験者
田中　理恵	地域・教育魅力化プラットフォーム	学識経験者
伊藤　博明	高知県教育委員会　教育長	管理機関の職員

7　高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
高知県教育委員会	伊藤　博明（教育長）
高知大学次世代地域創造センター	川村　晶子（客員准教授）
合同会社 Noks Labo	山﨑　直子（代表）
京都大学大学院矢守研究室	杉山　高志（研究員）
黒潮町観光ネットワーク	森田　俊彦（会長）
黒潮町産業推進室	濱口　無双（産業推進係主任）
黒潮町教育委員会	橋田　麻紀（教育次長）
黒潮町立佐賀中学校	宮﨑　宏治（校長）
黒潮町立大方中学校	浜口　和彦（校長）
高知県立大方高等学校	西村　優美（地域学校協働活動推進員）
高知県立大方高等学校ＰＴＡ	桐島　由佳（会長）
高知県立大方高等学校同窓会	村越　　麗（同窓代表）
高知県立大方高等学校	大西　雅人（学校長）

8　カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発等専門家	杉山　高志	京都大学大学院矢守研究室・研究員	都度依頼し謝金支払い
カリキュラム開発等専門家	川村　晶子	高知大学次世代地域創造センター・客員准教授	都度依頼し謝金支払い
地域協働学習実施支援員	松田　真紀	大方高校地域学校協働活動推進員	都度依頼し謝金支払い
地域協働学習実施支援員	西村　優美	大方高校地域学校協働活動推進員	都度依頼し謝金支払い

9　管理機関の取組・支援実績

（1）実施日程

業務項目	実施期間（　契約日　～令和４年３月 31 日）											
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
各種会議等における日程調整や情報提供	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
円滑な事業執行のための学校への助言	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
国費に上乗せした独自の支援や取組の実施	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
地域協働学習実施支援員の配置	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

（２）実績の説明

①運営指導委員会について

活動日程	活動内容
令和２年７月 27 日	第１回運営指導委員会 ・令和２年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業の取組についての説明 ・協議のテーマとして、「生徒の意識に火をつけ、教員も意欲的に関わるために必要なことについて」「多様な生徒に対する探究活動の支援について」「『総合的な探究の時間』の少ない時数で探究活動を効果的に進めるために必要なことについて」をあげ、３つを関連付けながら、指導・助言をいただく。
令和３年２月２日	第２回運営指導委員会 ・令和２年度の取組についての説明と次年度以降の取組について ・協議のテーマとして、「生徒の課題と地域のニーズにギャップがある場合、教員はどのような助言や工夫をすればよいか」、「関心意欲を引き出しにくい生徒が課題を自分事として捉えるよう工夫している。さらにより良いものにするために、他校の取組で生徒が主体性を持って取り組んでいる例があれば、どの様な工夫がされているか」をあげ、指導・助言をいただく。

②コンソーシアムについて

活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
８月 28 日	第１回コンソーシアム委員会 〇事業推進組織の立ち上げ承認と事業推進計画の共有 ・令和２年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の取組について、運営指導委員会・コンソーシアムを立ち上げて推進すること、事業計画等について報告し、承認される。 〇協議 ・「事業を効果的に展開するために」と「生徒の興味や関心に応えるために」をテーマとして委員から意見や助言をもらう。
11 月 28 日	日本赤十字社との連携 〇高知県青少年赤十字高校生連合会総会に参加 ・同窓生で日本赤十字に勤務しているコンソーシアム委員の仲介で参加し、本校の防災活動の取組紹介と、課題解決型のワークショップを行った。
１月 12 日	第２回コンソーシアム委員会 〇事業の取組状況の報告 ・地域学と総合の各担当から進捗状況を説明した。 ・高校魅力化評価システムの結果報告を行った。 〇コンソーシアムと学校の連携についての協議
４月 10 日、５月 14 日・29 日、 ６月 19 日、８月 ６日、 10 月 26 日、１月 14 日、 ３月８日	ふるさとキャリア教育　黒潮町まるごと教育祭 〇教育祭の発表やコロナ禍での実施方法等についての協議を実施。 ・保育所、小学校、中学校などの関係機関と８回の協議を重ねた。発表は黒潮町のケーブルテレビとユーチューブで配信した。
３月 15 日	第３回コンソーシアム委員会 〇事業の取組状況の報告 ・地域学と総合の各担当から実施状況を説明した。 ・学校独自の事業アンケートの結果報告を行った。 〇次年度の取組について報告 〇コンソーシアムと学校の連携についての協議

③カリキュラム開発等専門家又は海外交流アドバイザーについて

指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けは以下のとおりである。

【総合的な探究の時間のカリキュラム開発担当】
高知大学　次世代地域創造センター客員准教授　川村晶子氏（都度謝金支払い）
・本年度は３回来校。オンラインでの協議８回。大学での協議１回。
【地域学のカリキュラム開発担当】
京都大学矢守研究室研究員　杉山高志氏（都度謝金支払い）
・本年度はコロナ禍により来校できず。オンラインでの協議 16 回。

活動実績【総合的な探究の時間】

活動日程	活動内容
４月 22 日	オンライン会議システムを活用した協議 ・カリキュラムの内容について　　・教員研修の実施について
７月１日	校内研修会 ・総合的な探究の時間のより良い実践のために、教職員の生徒支援スキルを向上させることを目的に情報共有会を実施
７月 20 日	オンライン会議システムを活用した協議 ・ケーススタディの内容について ・アイデアソンの日程と展開について
９月　２日（第１部）	対面での協議 ・カリキュラムの実施時期の修正等について
９月　２日（第２部）	学年担当との協議 ・ケーススタディ報告会後に探究学習の進め方について
10 月 21 日	オンライン会議システムを活用した協議（校内推進委員会） ・取組状況の共有と課題解決に向けた意見交換
11 月 18 日	オンライン会議システムを活用した協議（校内推進委員会） ・進捗状況の報告と今後の方向性に向けた協議
12 月 11 日	オンライン会議システムを活用した協議 ・進捗状況の共有と意見交換
12 月 25 日	オンライン会議システムを活用した協議（校内推進委員会） ・進捗状況の報告と今後の方向性に向けた協議
１月　６日	オンライン会議システムを活用した協議 ・進捗状況の報告と今後の方向性に向けた協議
２月　９日	高知大学次世代地域創造センターで協議 ・次年度の方向性と探究活動について協議
３月　５日	オンライン会議システムを活用した協議 ・２年生アイデア発表会の振り返り
３月 15 日	対面での協議 ・次年度に向けたルーブリック評価について協議

活動実績【地域学】

活動日程	活動内容
５月８日・21 日	オンライン会議システムを活用した協議 ・地域学のカリキュラムの全体像について ・未来へのメモワールについて
５月 28 日（２回に分けて実施） ６月 19 日、７月 21 日 ９月 28 日、10 月 29 日	オンライン会議システムを活用した協議 ・入野小学校への出前授業について ・入野小学校への出前授業に関する振り返りと共有
６月 30 日	オンライン会議システムを活用した協議 ・防災委員会の取組について ・活動を効果的に進めるための意見交換
11 月 18 日	オンライン会議システムを活用した協議（校内推進委員会） ・進捗状況の報告と今後の方向性に向けた協議
12 月 11 日・21 日	オンライン会議システムを活用した協議 ・岩手県野田村との交流についての打ち合わせ
12 月 22 日	オンライン会議システムを活用した岩手県野田村との交流
12 月 25 日	オンライン会議システムを活用した協議（校内推進委員会）

	・進捗状況の報告と今後の方向性に向けた協議
１月 29 日	オンライン会議システムを活用した協議 ・未来へのメモワールについて
３月 15 日	オンライン会議システムを活用した協議 ・次年度の取組について

上記の活動の他に、電子メール等によりカリキュラムの内容や評価、展開上の留意点等についてやり取りを行った。

④地域協働学習実施支援員について

指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けは以下のとおりである。

大方高校地域学校協働活動推進員

・松田真紀氏（都度謝金払い）　20 回来校

大方高校地域学校協働活動推進員

・西村優美氏（都度謝金払い）　20 回来校。オンラインでの協議２回。

活動実績

日程	内容
７月 27 日	運営指導委員会（松田・西村） ・地域協働学習実施支援員として出席
８月 28 日	第１回コンソーシアム委員会出席（松田・西村）
９月 ９日	総合的な探究の時間打ち合わせ（松田・西村）
９月 16 日・17 日・18 日	高校魅力化評価アンケート配付作業（松田）
９月 18 日	総合的な探究の時間打ち合わせ（西村）
10 月 ５日	総合的な探究の時間打ち合わせ（西村）
10 月 14 日	総合的な探究の時間打ち合わせ（西村）
10 月 21 日	校内推進委員会への出席（松田・西村）
10 月 21 日・28 日	ケーススタディ実施（松田・西村） ・ケーススタディの参観と教員への助言
11 月 11 日	地域学活動打ち合わせ（松田）
11 月 18 日	ケーススタディ発表会打ち合わせ（松田・西村）
11 月 18 日	校内推進委員会（西村）
12 月 ２日	地域学活動打ち合わせ（松田）
12 月 ９日	Ｔシャツアート展の魅力化に向けた発表準備時の助言（西村）
12 月 16 日	Ｔシャツアート展の魅力化に向けた発表会（西村） ・質問、講評
12 月 23 日	後輩へのメッセージ発表会、打ち合わせ（松田・西村）
12 月 25 日	校内推進委員会への出席（西村）
１月 ５日	地域学協議（西村） ・アーティスト in レジデンス打ち合わせ
１月 12 日	第２回コンソーシアム委員会出席（松田・西村）
１月 22 日	総合的な探究の時間打ち合わせ（西村）
１月 29 日	総合的な探究の時間打ち合わせ（松田）
２月 ２日	総合的な探究の時間打ち合わせ（松田）
２月 ３日	総合的な探究の時間　授業アドバイスと打ち合わせ（松田・西村）
２月 10 日	総合的な探究の時間　授業アドバイスと打ち合わせ（松田）
２月 17 日	総合的な探究の時間　授業アドバイスと打ち合わせ（松田・西村）
２月 24 日	総合的な探究の時間　２年生アイデア発表会（西村）
３月 15 日	第３回コンソーシアム委員会出席（松田・西村）

⑤事業終了後の自走を見据えた取組について

事業終了後も取組を継続させていくため、防災と地域課題解決に関する取組に対して継続した支援をもらえるよう、黒潮町と協定を締結した。

併せて、黒潮町の人口減少の中、大方高校の魅力化促進に向け黒潮町と継続協議を行うこととしている。

⑥高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

令和２年５月 25 日に、「黒潮町と高知県立大方高等学校における防災・地域課題解決を担う未来の地域の創り手人材の育成に係る協定書」を締結した。

〈添付資料〉黒潮町と高知県立大方高等学校における防災・地域課題解決を担う未来の地域の創り手人材の育成に係る協定書

１０　研究開発の実績

（１）実施日程

実施項目	実施日程											
	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
地域学（地域学入門）探究学習			２回	３回		３回	３回	２回	３回	１回	５回	
地域学（地域学Ⅰ）探究学習			２回	３回		３回	３回	２回	３回	３回	３回	
地域学（地域学Ⅱ）探究学習			２回	３回		３回	３回	４回	３回	３回		
総合的な探究の時間（１年）探究学習			１回			１回	２回	２回	３回	３回	３回	
総合的な探究の時間（２年）探究学習			１回			３回	１回	２回	２回	２回	４回	
総合的な学習の時間（３年）探究学習			１回			１回	２回	２回	１回	１回		
科目「情報」における探究学習						１回						
課外活動における地域との協働活動			３回			１回				１回		

（２）実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

本事業の中核となっている学校設定科目である地域学と総合的な学習・探究の時間において、探究活動を位置づけた年間の活動イメージ図を、カリキュラム開発等専門家の助言をもとに作成し展開した。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、計画していた取組が実施できないこともあったが、実施時期や時間数等を調整しながらできることを進めていった。取組としては十分ではない面もあるが、目標の達成に向けた取組を推進しようと努めた。

これまでは、総合的な学習の時間で行われていた自律創造型地域課題解決学習を「防災」をテーマとし、総合的な探究の時間における３年間の探究活動に改編した。また、地域学においてもこれまでの流れに加えて、探究活動を組み込むことで防災をテーマとする学びがより充実するように組み替えた。

〈添付資料〉地域学と総合的な学習・探究の時間の「活動イメージ」

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置づけ（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間，学校設定教科・科目等）

本年度は、学校設定科目である地域学、総合的な学習・探究の時間、学校行事等で横断的な学習を計画した。

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

本年度は、地歴公民科・商業科・家庭科と学校設定科目であるライフセービングにおいて、テーマに基づき防災の観点を入れた横断的な学習を行った。また学校行事においてもテーマ

と関連させた取組を行った。

④類型毎の趣旨に応じた取組について

「防災」をキーワードとした探究活動を展開することにより、地域の「防災」や魅力化に向けた課題解決を進め、未来の「地域の創り手」人材の育成を目指した取組を展開してきた。生徒の自己評価や外部評価において、肯定的な評価をもらうことができた。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、地域の方々などを集めての発表会はできなかったが、校内での発表会をオンライン配信し、運営指導委員会やコンソーシアムの委員に発表を見てもらい、助言等をいただくことができた。

⑤成果の普及方法・実績について

地域学・総合的な探究の時間に関する取組をホームページで紹介した。また、発表会をオンライン配信し、運営指導委員会やコンソーシアム委員会の委員が視聴できるようにした。

毎月発行している「ソピアの旗だより」においても、生徒の活動の様子等を、県西部地域の中学校３年生とその保護者、黒潮町民に向けて紹介した。

⑥地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

研究開発のイメージを示したビジュアル資料をもとに職員間で共有を行い、育てたい５つの力を育成するために、研究開発を推進する校内チームとして「校内推進委員会」を立ち上げた。「校内推進委員会」では、探究活動や本事業に係る研修内容について共有を行い、総合的な学習の時間・探究の時間の学年担当者、地域学担当者で定期的な協議を行った。

【育てたい５つの力】

Ⅰ	探究力	情報収集による課題理解・解決に向けた課題解決力
Ⅱ	つながる力	コミュニケーション・プレゼンテーション力、思いや願いの理解
Ⅲ	多様性受容力	多様な人との交流や理解
Ⅳ	マネジメント力	計画を立て取り組める力
Ⅴ	レジリエンス	厳しい状況の改善に向けた意識と実践

⑦学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

総合的な学習・探究の時間の担当者や地域学の担当者、防災教育プロジェクトチームや生徒会担当教員などが連携しながら取組を推進している。地域との連携は本事業の事業統括主任である地域学担当教員や、防災教育プロジェクトチームの責任者である教頭を中心として外部との連絡調整を行い、各学年担当他に取組を進めるという形で推進した。

⑧学校長の下で，研究開発の進捗管理を行い，定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

担当者間の協議は原則として毎週実施するとともに、オンライン会議システムを用いるなどしたカリキュラム開発等専門家との協議をもとに、校内推進委員会において進捗状況を共有した。

また、成果検証のアンケート結果等を管理職と分析し、取組状況と成果と課題等についての検討を行った。

⑨カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

コンソーシアムの委員に対して、進捗状況や成果と課題等を報告し、助言をいただいた。年度当初の新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、第１回コンソーシアムの開催が７月末となったことから、その間は地域協働学習実施支援員との連携を中心にして進めた。

第２回のコンソーシアム委員会では、事業の進捗状況の報告とアンケートの分析による成果と課題を示し、インターンシップや中高の連携、テーマに関する他機関との連携等について協議を行った。

第３回のコンソーシアム委員会は、第２回運営指導委員会の意見をもとに次年度の取組を見直したものを提案し、連携できる内容について協議を行った。

コンソーシアム委員会以外の活動としては、コンソーシアムの委員の方をとおして以下のような取組を行った。

・生徒のコミュニケーション・プレゼンテーション力の向上を目指すため、同窓会代表村

越氏（日本赤十字社所属）の助言をもとに、「高知県青少年赤十字高校生連合会総会」での本校の防災活動の取組紹介と課題解決型のワークショップへ参加した。

・また、コンソーシアム委員をお願いしてある中学校などの関係機関と連携し、コロナ禍における黒潮町まるごと教育祭の実施方法などについて協議を重ね、発表は黒潮町のケーブルテレビで配信した。

・京都大学矢守研究室研究員の杉山氏には、本校防災委員会の取組や避難訓練時の防災活動について意見や助言をいただいた。また、黒潮町情報防災課とつないでいただき、防災活動に関して地域と連携した取組を行うことができた。

・高知大学次世代地域創造センターの川村氏には、現在と未来の社会についてのインプットと探究活動の必要性について生徒に向けて講義をしていただいた。

・地域課題を発見するための活動では、コンソーシアム委員をお願いしてある黒潮町の関係機関と連携して生徒によるインタビューを行い、わからないことや現段階で課題として考えていること等を聞いていただき、意見や助言をもらった。

・大方高校地域学校協働活動推進員の西村氏には、アーティスト in レジデンスという活動を行っている地元出身の写真家とつないでいただき、地域に芸術を取り込んだ活動の中で、生徒と一緒にできることを考えていくことを提案いただいた。１月に具体的な取組について協議を行ったが、コロナ禍のため次年度に再検討を行うこととした。

１１　目標の進捗状況，成果，評価

（１）事業実施において設定した目標におけるアウトカム目標の達成状況

実施したアンケートの結果分析から、現時点では全ての学年において目標を達成できているとは言い難い状況であるが、今後の取組をとおして達成に向けた期待は十分あると考えている。

高知県教育委員会が独自に実施する「高知県オリジナルアンケート」（別添資料）については、全体的に見ると肯定的な回答が多く見られたが、目標として設定（目標設定シート）している「地域への貢献等の活動を通して、自己効力感や自己有用感をもつことができた」、「地域の課題解決に取り組むことにより、自身の将来の夢や目標を持つことにつながった」と回答する生徒の割合では、地域活動やボランティア活動等が制限されたため達成することができていない。「物事に取り組む際には、目標を立てその達成に向けて努力することができる」と回答している生徒の割合は 80％であり、探究活動をとおして見通しを立て、それに向けて最後まで取り組む事ができるようになっていると思われる。

地元（本校の設定は県内）への定着率については、約 61％の生徒が地元での進学・就職が決まっており、県内就職者は 75％となっている。

「高校魅力化評価システム」では、「学習活動」や「学習環境」の領域で肯定的な評価が事業実施校の平均を上回っていたが、「自己認識」や「行動実績」では下回っている領域が多かった。「防災活動や地域課題解決学習に関する生徒アンケート」では、全ての学年において７割以上の肯定的な回答があったのは「地域の魅力や良さを理解する力が身に付いた」の１項目のみであった。

実施したアンケートは以下のようになっている。

	項　目 アンケート	実施主体	対象	実施時期	実施形態
1	高校魅力化評価システム	三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング	生徒・地域住民等	令和２年８月	選択
2	防災活動や地域課題解決学習に関する生徒アンケート	大方高校	生徒	令和２年９月	選択・記述
3	高知県オリジナルアンケート	高知県教育委員会事務局　高等学校課	県立高等学校の生徒	令和２年６月・10 月・１月	選択

＜添付資料＞目標設定シート、高校魅力化評価システム・防災活動や地域課題解決学習に関する生徒アンケート（生徒対象）・高知県オリジナルアンケート（生徒対象）

（２）発表会や各種会議の開催・参加

地域学においては出前授業や国土交通省四国地方整備局中村河川国道事務所への提案を行うとともに、ふるさとキャリア教育における発表も地元ケーブルテレビで配信し、取組等について報告することができると判断している。また、総合的な学習の時間・探究の時間においても、ケーススタディでの学びや後輩へのメッセージ、地域行事の活性化に向けた計画案の発表会を開催した。発表については、運営指導委員会やコンソーシアムの委員の皆様に、オンライン配信により視聴していただき感想等をもらうとともに、地域協働学習実施支援員やカリキュラム開発等専門家の方に参加いただき、生徒への講評をしてもらった。

教職員が参加した会議等には以下のものがある。

時期	テーマ他	参加者数	実施主体
５月	「緊急 Zoom 後援会」 ・講演「with コロナ時代に高校と地域が打つべき一手とは」　大正大学　浦崎太郎教授 ・ディスカッション	５名	（株）EDO 主催・岐阜みらいカレッジ共催
７月	「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（高等学校における研究開発）担当者会議」	４名	文部科学省
７月 ※	校内研修会 ・テーマ「総合的な探究の時間のより良い実践のために、研修をとおして教職員のスキルを向上させる」　高知大学次世代地域創造センター　川村晶子客員准教授	20 名	大方高校
10 月	「地域との協働による高等学校教育改革推進事業全国サミット」	５名	文部科学省
12 月	先進校視察　愛媛県立三崎高等学校	４名	大方高校
12 月	「地域との協働による高等学校教育改革推進事業全国サミット」	５名	文部科学省
２月	「地域との協働による高等学校教育改革推進事業及び WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業拠点校とのオンライン意見交換」	３名	文部科学省

※本来は４月３日開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で７月開催となる。

（３）地域でのフィールドワーク等や連携した活動の実施

フィールドワークやインタビューを実施するのが難しい状況ではあったが、少人数対応やオンライン会議システムの活用、感染状況が比較的落ち着いた時期に以下のことを実施した。

時期	テーマ	内容
６月	・高齢者宅へ暑中見舞いはがきを送付しよう	新型コロナウイルス感染症の感染拡大で外出を控えている高齢者の方に暑中見舞いを出そうとの発案から、全校生徒が葉書を作成し送付。
７月	・暑中見舞いへの返信葉書からアンケート結果を集計	６月に発送した暑中見舞い葉書の返信欄に記したアンケートを項目ごとに分類し、「家具固定ができていない高齢者が多い」を確認し、次の活動を方向づけ。
８月	・津波避難タワーを清掃しよう	地区内の津波避難タワーが、高齢化の影響もあり長年清掃活動ができない状態にあることを聞いた生徒たちが、清掃活動にチャレンジ。

８月	・グリレモコッタを売り出そう	地元の事業所である「ぷちどーる」さんと連携して、総合的な探究の時間などの時間を使って生徒が考案したグリーンレモンを使用したパンナコッタを「グリレモコッタ」と命名し、販売活動を展開。
８月	・黒潮町総合避難訓練への参加	毎年実施される黒潮町総合避難訓練に参加し、避難訓練を行うとともに、避難所となっている本校に避難してくる地域の人々に学校施設を確認してもらう。
10 月	・地域の人材から学ぼう	地域の事業経営者の方の事例をもとに、文章を読み込み、インタビューを行うケーススタディを実施。
11 月	・学んだことを発表しよう	ケーススタディの活動をとおして学んだことを、下級生に向けてグループごとに発表
11 月	・高齢者との避難訓練	町内の出口地区の高齢者が交流会を行っている集会所から、巨大地震発生の想定のもと、発生から５分後に３方向に分かれて避難開始。逃げトレアプリを活用して避難場所までの経路確認と安全確認の訓練を実施。
12 月	・Ｔシャツアート展のさらなる魅力化	地域のイベントであるＴシャツアート展を活用してフィールドワークを実施し、より多くの人に魅力を感じてもらうために自分たちに何ができるかを考え、魅力化案を検討して提案。
12 月	・国土交通省との交渉	地域学で防災について学んでいる２年生が、避難時の体力向上と、日常における避難訓練の意識化を結びつけ、地域住民の散歩コースにベンチを置くことへの許可を求めるプレゼンテーションを実施。
１月	・避難所見学と施設説明、意見交換	地域の人々に、大方高校の新しくなった体育館を見ていただき、簡易テントの張り方や配置等に関する意見交換を実施。また、使用上の課題についても意見交換を実施。

以上のことについて感染防止対策を行いながら実施し、振り返りにおける生徒の声には達成感を味わっている者も出てきたが、探究活動としては十分ではないところもあった。

１２　次年度以降の課題及び改善点

探究活動の進め方が十分ではなく、探究になり得ていない面がありカリキュラム開発等専門家や地域協働学習実施支援員を含めた推進方法の見直しが必要である。また、各教科における教科横断の取組も十分ではないため、次年度は各教科が横断的にテーマに基づいた探究活動ができるよう、年度当初からのテーマ設定と実施時期の明確化を図る必要がある。

総合的な探究の時間や地域学において、生徒の探究活動やプレゼン等のパフォーマンス能力を測定するルーブリックの作成が事業推進と同時並行となってしまい、生徒に育てたい力の客観的な評価ができない状況があった。そのため、次年度のスタート時期にはゴールとしての育てたい力とその具体を明示できるように準備するとともに、ルーブリックを全教職員と生徒間で共有して実施していきたい。

併せて、校内推進委員会や担当者会を始めとする協議の内容を、全教職員でしっかりと共有できるシステムを構築する必要があり、事業推進責任者や事業統括主任を中心とした推進体制の再確認により、実践につなげたい。

【担当者】

担当課	高等学校振興課	ＴＥＬ	088-821-4542
氏　名	中越　啓介	ＦＡＸ	088-821-4547
職　名	指導主事	e-mail	keisuke_nakagoshi@ken4.pref.kochi.lg.jp